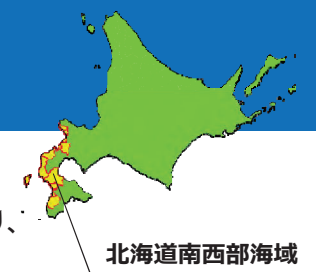


北海道南西部海域 藻場ビジョン

実効性のある効率的な藻場の保全・創造に向けた行動計画



【藻場の保全・創造に向けた対策実施箇所及び対策内容】

ウニ類に対する餌料供給場、ソイ類・アイナメ等の稚魚の隠れ場や餌場等の創出のため、嵩上げ礁等により、令和13年度までコンブ類やホンダワラ類等を対象とした18.98haの藻場を造成、ウニ類の食圧を抑制する密度管理、海藻のタネ供給のためのコンブ類の母藻設置等を実施することにより、52.5haの藻場を保全し、また、ドローンによる画像解析などの新技術の開発により効率的な藻場の管理を行い、計115haの藻場の造成・維持を目標とする。

藻場の衰退要因に応じたハード・ソフト対策

藻場の役割

- ソイ類等稚魚の生育場
- ニシン等の産卵場
- ウニ類等への餌料供給場

藻場面積の変化

調査年	コンブ場	ワカメ場	ガラモ場	アマモ場	その他
S53	4,300	1,000	0	0	0
H4	4,500	1,500	0	0	0
H10	3,500	1,000	0	0	0
H24	1,200	500	0	0	0
H28	1,000	500	0	0	0

減少傾向

藻場の衰退要因

- ウニの食圧過剰**
ウニの生息密度が高い摂餌限界水深以浅に藻場形成
- 海藻のタネ不足**
汀線付近のごく浅い水深帯のみに藻場形成
- 基質不足**
海藻草類の着生に適した安定した基質が不足

藻場の衰退要因

- ウニの食圧過剰
- ウニの食圧過剰+海藻のタネ不足
- 基質不足
- 藻場

対策実施対象種

- コンブ類
- ホンダワラ類
- スガモ

④藻場 八雲町、江差町、(せたな町、奥尻町(西側)など)

- 底質は岩盤または転石
- 藻場が変わらず形成

③基質不足 (八雲町、江差町など)

- 底質は砂、一部岩礁が点在
- 水深にかかわらず岩礁基質に藻場が形成

①ウニの食圧過剰 (岩内町、寿都町など)

- 底質は岩盤または転石
- ウニ類の生息密度が高く摂餌限界水深以浅に藻場が形成
- 藻場は衰退傾向

②ウニの食圧過剰+海藻のタネ不足 (神恵内村、島牧村、奥尻島(東側)など)

- 底質は岩盤または転石
- 汀線付近のごく浅い水深帯のみに藻場が形成
- 藻場は衰退傾向

対策の検討・実施体制及び対策内容

北海道藻場ビジョン検討会
北海道、学識者、水産試験場、市町村、漁業関係者

北海道南西部海域検討部会
北海道後志総合振興局 市町村(神恵内村~島牧村) 漁業関係者(漁協、活動組織)
北海道檜山振興局 市町村(せたな町~上ノ国町) 漁業関係者(漁協、活動組織)

ハード対策候補

(海藻草類の着生基質の設置)

- 嵩上げ礁
- 脚式構造の藻礁
- 高さのある藻礁

効果: 流動促進によるウニの食圧抑制、砂への埋没回避浮泥の堆積抑制

ソフト対策候補

- ウニの密度管理
- 母藻の設置
- 海藻の種苗投入

効果: ウニの食圧抑制、海藻のタネの供給

モニタリング・検証

[モニタリング]

- 海藻草類の着生状況
- 食害生物の生息密度(ウニ類や小型巻貝類等)
- 魚類の蛸集産卵状況
- ウニ類等の肥育状況等

[検証]

- 検討部会及び検討会で対策実施状況を検証
- 目標の達成状況、海域環境の変化、漁業情勢の変化に応じて計画の見直し・改善

藻場分布

平成4年度(点線)
平成10年度(破線)
平成24年度(実線)

底質

- 岩盤
- 礫
- 中~粗砂
- 細砂
- 泥

実施候補地: 赤い四角 (ハード対策), 青い四角 (ソフト対策)